

# 「連携ありき」で考えない

電気通信大学

三輪 忍

# 連携会議のメリット/デメリット

+ 異分野交流

+ 運営コストのスケールメリット

- 意見集約が困難

# 「今後」に対する私見

- 「連携ありき」で考えない
  - 意見が集約しないのはある意味当然
    - 回路から HPC までさまざまな分野の研究会/国際会議に参加したが、置かれている状況は分野/立場によって異なると感じる
  - 他分野との交流は国内研究会でも十分可能
    - 例) SWoPP, ETNET, HOKKE, デザインガイア, HotSpa, ...
- 「分野毎に独立に運営し、連携できそうなら連携する」  
でよいのでは？
  - FDRC とか HPCA-CGO-PPoPP のイメージ
  - 運営コストのスケールメリットはあまりないが、分野毎に需要にマッチするサービスを提供できるメリットの方が大きい



# アーキテクチャ分野において 需要があると思われる新会議

## ① 研究会～国際WS or 国際会議の間を埋める何か

- 例：採択率8-9割の英文アブストのみの国際WS
- 国内需要は多いと思われる
  - 修士以下の学生：現実的な目標, (形式上の)業績
  - 教員等の研究者：若手の教育, 運営経験, (形式上の)業績

## ② アーキテクチャがメインの準トップ・カンファレンス (具体的には採択率が20%強の国際会議)

- ISCA, MICRO, HPCA, ASPLOS にぎりぎり通らない論文を拾う
  - 今は DAC, DATE, ISLPED, ICCD, ASP-DAC あたりに分散
- 海外需要は多いと思われるが, 国内は？
  - 日本の論文は数件程度と予想
- 実現性は？？？

- これら以外は, 既存の会議を育てる or 利用すれば十分
- あえて新しく始めるなら ① がよいのでは？ (個人的見解)